地域食堂誕生

保護者ら立ち上げ　町会、包括も協力

新たな居場所に

参加者を子どもに限定せず、世代を問わず集まることができる「地域食堂」が昨年12月、函館市内に誕生した。立ち上げたのは小中学生の保護者らで、会場は日吉南団地自治会館（日吉町2）。同町会なども運営をサポートし、地域住民の新たな居場所にする計画だ。代表を務める高橋さやかさん（38）は「世代を超えて大勢の人が集まり、楽しく交流する場所にしたい」と意気込んでいる。

（松宮一郎）

地域食堂は、日吉が丘小学校PTA副会長と湯川中学校PTA会長を務める高橋代表ら保護者仲間が集まって話す中で思いついたアイデア。「子どもも高齢者もわいわいできることも食堂のような場所があればと話していた。コロナ禍も明けたのでぜひ挑戦したいと思ったのが出発点」と高橋代表。

会場がなかなか見つからず、市地域包括支援センターゆのかわに相談。同町会（泉谷明弘会長）との間を橋渡ししてもらい、実現することができた。川西恭代副代表（41）は「子どもは塾や習い事、部活があり、一人で食事をすることが多い」。一方、泉谷会長は「地域の高齢者も一人暮らしが増えてきており、大勢で食べる機会をつくることができる。交流の輪を広げたい」と思いが一致した。

また、食事の前には勉強と自由時間を設け、子どもと地域住民の交流の時間にする。手芸やものづくり、将棋などが得意だったり、勉強を教えたりする住民に声を掛けて運営に協力してもらう計画。包括の保健師、京谷佳子さん（47）は「高齢者には得意なことを持ち寄ってもらい、やりがい、生きがいづくりにつなげてもらう。また、町会や地域の活動に関心を持つ子どもが増えてくれれば」とし、運営面を全面的に支援する。

食堂の名前は「ハホニコキッチン」。「ハッとする（驚き、発見）、ホッとする、ニコッとする」場所にしたいという思いを込めた。昨年12月に1回目を開催。今月24日の2回目には小学生10人、中学生40人、地域住民10人の計60人が参加した。

食材は北斗市の農家などから提供を受け、保護者の有志約10人が調理を担当。豚汁とおにぎりなどをつくった。参加した湯川中2年の中村心優さん（14）は「学年や世代を超えて交流できることが楽しい。食事もとてもおいしい」と笑顔が弾けた。

■ハホニコキッチン

高橋代表は「地域食堂の運営に関わる住民、楽しみに来る子どもを増やしていきたい」と話した。次回は2月21日午後4時から。中学生までは100円。高校生200円、大学生以上は400円。5日前までの申し込みが必要。インスタグラムなどから予約する。

地域食堂「ハホニコキッチン」でおにぎりや豚汁を味わう中学生

地域食堂に協力する（左から）函館市地域包括支援センターゆのかわの京谷さん、町会の泉谷会長、運営を担う高橋代表、川西副代表